

リレー連載



山口 章平氏（やまぐち・しょうへい） 昭和55年生まれ。神戸大卒。技術士。建設技術研究所 東京本社交通システム部

近年、ICT（情報通信技術）の発達が目覚ましい。ICTは、環境の心・安全対策 ③ 確実な状態や機械の動きなどをさまざまなデータを計測、保存し、情報として伝送する一連のシステムだ。建設機械の稼働状況を遠隔地で監視できたり、スマートフォン（高機能携帯電話）から家電の遠隔操作ができたりする。

**環境・安全・効率にも効果的**

物流業界では①NOx（窒素酸化物）やCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）の排出量を削減する。運行管理者は自社

## 第11回 事業者のICT活用方法は

のドライバーが環境に優しい運転をしているかどうかを定量的に評価し、ドライバー教育に役立てることができる。

安心・安全対策では、車両の加減速データを無

に通知されヒヤリハットや事故防止に役立てられる。赤外線センサーなどによる車両周辺の認知支援機能や前方車両を自動追従する車間自動制御システムも、ドライバーの負担を軽減し、安心・安全を高めるに違いない。

これにより、停車時間を把握して荷降ろしなどの作業状況確認、次の配送先への到着予定時刻の予測、誤配防止が可能になる。車両の現在地が把握できていれば、荷主が

率的な配車・運行計画の策定に生かせる。厳格な温度管理に活用できる。厳格な温度管理が必要な貨物は、従来の生鮮食品に加え冷凍食品、感染症ワクチンや関節リウマチの治療薬である生物学的製剤のような医薬品、とでより大きな効果を発揮する。ICTを活用するためには、機器の導入費用のほか、通信料金などのコストが掛かる。国土交通省はICTの普及に注力しており、事故防止対策支援推進事業として、デジタコやドライブレコーダーなど国交省が認定した機器（ホームページ）の取得経費の半額を補助する支援を実施している。

ICT 活用した貨物車運行管理イメージ

